

聴くオフ・ミーティング報告書

みどりの基本計画、改定中！

令和5年12月9日 開催

テーマ「杉並のみどりをどう守る？ どう創る？」

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。

令和5年12月9日は、「杉並のみどりをどう守る？ どう創る？」をテーマに、一般公募と、無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた40名の方と話し合いました。

区長から

現在、区では「みどりの基本計画」という大切な計画を改定しています。「みどり豊かな住まいのみやこ」は区が掲げた基本構想ですが、これをどうやって実現していくかが課題です。杉並区に住んでいる皆さんと一緒に、この計画や未来を創っていきたいと思っています。本日はご意見やアイデアをたくさんお聞かせください。



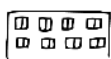
担当課からの説明



みどりにはリフレッシュ効果やまちの景観を彩るだけでなく、二酸化炭素を吸収して地球温暖化防止に役立つ、ヒートアイランド現象を緩和するなど幅広い機能があります。気候危機への対応やグリーンインフラへの取組など、区内にとどまらず世界的に見てもみどりを取り巻く環境が大きく変化していることから、区では、みどり政策を進める上で重要な「杉並区みどりの基本計画」の改定を進めています。

区内のみどりを平成29年と令和4年で比べると、区内全域を樹木や草地などがどれだけ覆っているかを示す緑被率は増加した一方、樹木や樹林は減少しました。区内のみどりは公園や道路など公共の土地にあるみどりが約3割なのに対して、民間の土地にあるみどりが全体の約7割を占め、特に一戸建て住宅のみどりがもっとも大きな割合を占めています。こうしたことから、杉並区のみどりを守り創ることを考える上で、区民個人レベルでの取組が必要不可欠です。

このような区の現状から、これから目指す区の将来像を考えたときに、計画改定を進める4つの視点がまとまってきました。中でも、「杉並の原風景から見る“杉並らしい”みどりのあり方」、「みどりに関わる多様な立場を理解し、自分事として考える」は、特に区民の皆さんと話し合いながら検討していくことが求められます。例えば、杉並らしいみどりとは何なのか、自分事として考えるとはどういうことなのか、答えがあるようでなく、人によっても違います。必ずしも答えが一つではないからこそ、行政と区民で考えていくという姿勢がとても重要です。本日は、より良いみどりの基本計画改定に向けて、皆さんから貴重なご意見をいただきたいと考えています。



みどりの所有者からの説明



私の自宅は約400年続く農家で、畑のほか区指定の貴重木4本と保護樹木10本、保護生垣302メートルのある屋敷林です。父は専業農家でしたが、私は他の事業をしながら跡を継いでいます。苦労している点としては、皆さん総論ではみどりはいいと言ってくれますが、近所の方からは落ち葉がひどいと苦情を受けるので、ボランティアの方たちと共に落ち葉を掃いています。地域の理解を得るという意味も含めて、子供たちへの樹木クイズなどのある公開イベントも年に2回ほど開催しています。ほかにも、みどりを守ろうというのは簡単な話なのですが多額のお金がかかります。区から補助も受けていますがとても足りない状況です。だからと言って区にもっと補助してくれという気持ちでなく、何か工夫してやっていかなければと思っています。そこで生垣の刈込を、30時間くらいかけて自分でやっています。これからも自分でできることは自分でしながら、子供や近所の皆さんに屋敷林や農地を見てもらうことによって、応援してもらえればと思っています。



私は区内の屋敷林所有者で、30mくらい高さのあるケヤキを4本と農地も所有しています。屋敷林の苦労は落ち葉です。道路に落ち葉があると、近隣から何とかしてくれないかと言われる。ボランティアの方にも手伝っていただいているのですが、毎日ではないので私と妻が二人だけで掃き掃除をします。夜に風が吹くと気になって次の日が憂鬱になります。ほかにも台風でケヤキの枝が折れて屋根に穴をあけて修理に500万円かかったこともあります。しかしできるだけこの屋敷林と農地を残していきたいと思い、麦まきや脱穀の体験、麦コーヒーを淹れて飲んでもらうなどのイベントを開催して、農地のことを地域に知ってもらおうきっかけをつくっています。農地が減っている一番の理由は相続のときに手放さざるを得ない事情にあります。これには相続税を下げるなどの対策がありますが、難しい問題です。



全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークで出た主な意見です。

- 参加者 落ち葉持参で参加できる焼き芋イベントを開催し、落ち葉をみんなで1か所に集めれば杉並区の落ち葉問題も解決するのでは。
- 参加者 落ち葉掃きや植木の剪定など自分ができるところをしっかりとっていく。
- 参加者 大人と一緒に子供達も学校単位で落ち葉拾いに参加する。子供がみどりを守る活動に関わることで、次の世代につなげていきたい。
- 参加者 樹齢百年の桜の大木があり、たくさん褒めていただく一方、近隣には多々迷惑も掛けている。個人宅の生け垣や大木のメリット、デメリットを近隣と共有して緑を育てていける場を区でも設けてほしい。
- 参加者 新築の戸建てやマンションには、必ず最低1本樹木を植える条例をつくってほしい。

- 参加者 杉並区の名前の由来は、昔、青梅街道に杉の木を並べて植えたから。そうした歴史と杉並区の背景を考えて、やはりみどりは別物ではなく、緑があって、そこに人、暮らし、教育、文化などがあることを再認識した。
- 参加者 一軒家が建て替わり、庭木がなくなる現状は寂しい限り。都や国にも働きかけて、地域的な協定なり規制するなど、最低限のみどりを確保してほしい。次世代につなぐため、教育の場で子供たちにみどりの大切さを教え、体験してもらっても良い。
- 参加者 区にもう少し情報発信してほしい。今日話を聞いて、様々な補助や活動を知ったが、もう少し分かりやすく情報発信して区民にも共有してほしい。
- 参加者 樹冠被覆率を区の指標の一つに取り入れてほしい。都市部では40%を超えると熱中症の死者数が半減するというデータもある。木を残す、守ることで治水するという観点で、経済合理性やお金の効率性から脱していくことが必要。
- 参加者 みどりの所有者の話聞いて、屋敷林には維持費がとてかかるので、みどりの基金などで少しでも支援したい。



- 参加者 みどりの基本計画改定時に、聴くオフ・ミーティングを開催することは素晴らしい。みどりの所有者の話を知り、どう守っていくかを考えた。
- 参加者 みんなで歩きながら杉並区内のみどりの原風景探しをする。世代や居住歴、考えによって原風景は違うが、原風景のコアとなる社寺林、屋敷林、畑などについて保全活用を考えるプロジェクトができればいいのでは。
- 参加者 屋敷林の所有者は近隣との交流の場を設けており、維持管理は大変だが、今後もぜひ公開してもらいたい。住民との交流で互いみどりに対する意識を高め合えるとよい。
- 参加者 区のみどりに関する発信について、若者にも届くインスタなどもっと楽しい発信の仕方を工夫してほしい。公園でもっと過ごしたい方も多くいるので、杉並区がクラウドファンディングでお金を集めて土地を買ってほしい。
- 参加者 みどりを増やすには、苗木配布など新しくみどりを増やすこと、既にあるみどりを減らさないことのどちらも必要。
- 参加者 みどりを創るのはよいが、落ち葉や虫・動物が出るなど管理は大変。
- 参加者 現在みどりは公園にしかなく、公園を増やすしかない。個人のみどりを減らさないためには、家を建てる時に植えた木のケアも必要。
- 参加者 住宅都市杉並では、みどりについて相談できる窓口や維持管理のためのヘルプ体制、シルバー人材の活用などのバックアップがあれば、個人がみどりを守り増やすことができる。
- 参加者 子供がグランピングやハンモック、大人がバードウォッチングを楽しめ、昆虫採集もできるような公園にできたらいいな。

- 参加者 子供の頃から木やみどりに触れる教育をすることで、大人になってもみどりを大切に思うようになるのでは。
- 参加者 地球温暖化や洪水問題などを防ぐためにも、グリーンインフラの重要性をもっと広めてほしい。
- 参加者 青梅街道や環八の街路樹にイチヨウの木が植えられているのは防火樹としての役割があり、街道沿いの木には夏は日陰になり、冬は葉が落ちて日が差すといった機能もある。
- ★みどりの所有者 皆さんのご意見を聞かせてもらい、あらためてみどりには価値があると感じ、勇気もらった。みどりの価値をもっと広めていけたら、それが杉並区の価値にもつながる。
- 参加者 庭の保持が難しい方へ行政から補助がほしい。木があることのメリットもあるが、動物が出るなどのデメリットを減らしていけるとよい。
- 参加者 高井戸公園が新設され、広い原っぱができて子供はサッカーをして遊んでいる。公園を作ることはすごく大事、外で遊べる環境を整えてもらうと助かる。



★みどりの所有者 皆さんに苦労などを知ってもらうことが、みどりへの理解を広めるためには一番。機会があれば、これからも話をしていきたい。

●区長 区は様々な方法で多くの情報を発信していますが、それは区からの一方向の発信なので、今後は双方向的なコミュニケーションになっていく必要があると思います。また、みどりの基本計画をこれから検討していく上で、みどりを守ることに、防災や気候変動対策の観点からも、区民の皆さんと合意を形成していく必要があると思います。



区長の感想（全体を）通して

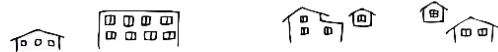
気候変動や温暖化で都市が灼熱のコンクリートになっていく未来よりも、コンクリートを剥がして水を吸収させ、みどりが洪水から区民を守り、健康も増進する。みどりが好きな人だけでなく区民全体の価値にすることによって、みどりを守ることに新たな公共性が生み出されていきます。

杉並区が「みどり豊かな 住まいのみやこ」になるよう、本日いただいたアイデアや意見を踏まえ、みどりの基本計画をしっかりと創ってまいります。

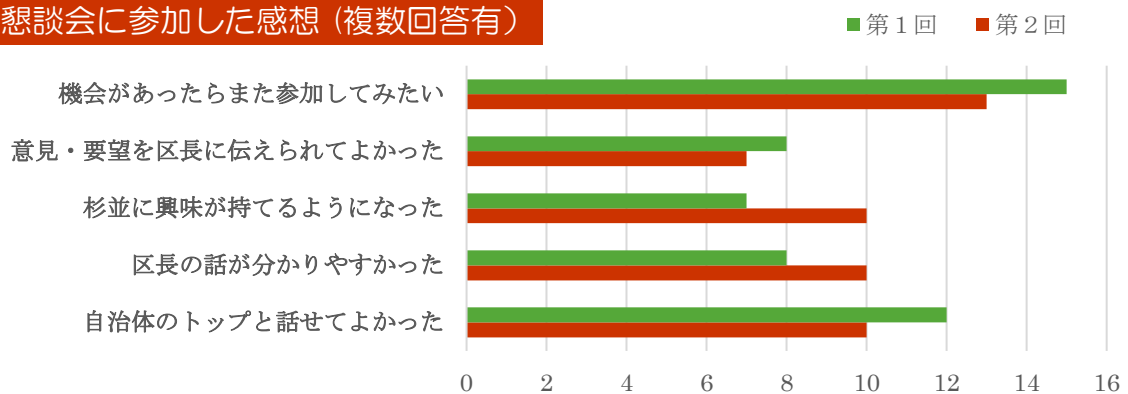


みどり施策の担当課から

今回のミーティングでは、杉並区みどりの基本計画の改定を進めるにあたって、「杉並のみどりをどう守る？どう創る？」をテーマに、参加者の方々の活発な意見が交わされました。いただいたご意見から、みどりに関心を持つ人を増やすことが重要であり、それには区の PR の仕方やみどりへの関心を子どもの頃から高めるための環境学習が重要だと感じました。そのほか、落ち葉や倒木などみどりのデメリットも共有しながらでないともどりを守れないといったご意見もあり、みどりとの共生を考える必要もあることがわかりました。今回いただいたご意見やアイデアを反映していくことによって、区民主役の杉並区みどりの基本計画に改定し、区民共通の財産であるみどりを将来にわたって守り、育て、創出していくものになるよう目指していきます。



懇談会に参加した感想（複数回答有）



令和5年12月9日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

〈参加者〉 区民40名、区長、みどり施策担当ほか

令和6年1月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111

